令和6年度 第3回 入野中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年2月27日（木） 9時30分から11時40分まで
- 2 開催場所 入野中学校 大会議室
- 3 出席委員 大塚 哲雄、田澤 健司、御室 福二、齋藤 良夫、幅 あけみ、
内藤 明子、村上 さくら、岡田 光弘
- 4 欠席委員 田口 章
- 5 オブザーバー 松下 正行（浜松市議会議員）、徳増 宏之（入野協働センター長）
- 6 学 校 上田 高之（校長）、高橋 知己（教頭）、
大庭 孝仁（主幹教諭・CS担当）、久保 理絵香（CSディレクター）
- 7 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 久保 理絵香
- 10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、田澤委員を推挙する発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）令和6年度学校評価について
- （2）部活動地域移行について
- （3）学校運営協議会の自己評価について
- （4）次年度学校運営の基本方針について

12 会議記録

司会の高橋教頭から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）令和6年度学校評価について

議長の指示により、大庭主幹から、資料に基づき、令和6年度学校評価の結果について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 学校公開日にはどのくらいの保護者が参加しているのか。（内藤委員）
→毎時間各フロアに2～4人程度の参観者がいる。年度当初（1学期）の方が多く、
だんだん減ってきているのが現状である。（大庭主幹）
- ・ 今年の1年生の評価が昨年の1年生より高く、今年度の学校の取り組みの成果が出ていると考えられる。1年から2年になると評価が落ちる傾向がみられ、保護者の関心も低下するので、機会を作って足を運んでもらうことは大切である。（田澤委員）
- ・ 保護者としては学習面の期待は大きい。行事等の学習以外の経験も大切だと考えると、学校だけでは学習の定着は難しいため、家庭も協力してやれたらよい。年度初めに家庭での学習について示してもらえると、保護者も心づもりができる。（村上委員）
- ・ 学校に来るのが楽しいことが一番大事。授業が面白いことが、学校に来るのが楽しいことにつながると考えると、良い評価が出ていると思う。
学校公開日の参加が少ないことは、学校に対する安心感や満足度の表れとも考えられる。また、時間の都合や、学校に来ることに対する意識の違いなどを考え、多くの保護者が参加しやすくなるような手立ても必要である。（大塚委員）
- ・ ひぶせ学級の生徒の方が学校に来るのが楽しい割合が高い。また、ひぶせ学級の保護者の評価が高いことから、学校の取り組みに満足していることがわかる。全体で気になるのは学習面。学校以外の学習をしない現状は課題である。（松下議員）

- ・ ブログで学校の様子をたくさん発信してくれているので、保護者が見て安心する材料になっている。(内藤委員)
- ・ 学校に来ると生徒は元気に挨拶してくれる。入野中には明るく楽しい雰囲気があるのだと感じるので、今の状態を続けてほしいと思う。学校公開日は、参加しやすくするために3日から1週間に延ばしてみたらどうか。(幅委員)
- ・ 「とことん関わる」を実践し、生徒と濃密に関わってきたことが成果に出ている。学習に関しては、新しいことを知る喜びを感じる事が大切であり、それが自ら学習に向かうことにつながる。(田澤委員)

<いじめ防止について>

- ・ いじめは子ども同士の事なので、生徒自身がいじめについてどう考えるかが大切。生徒同士の話し合いを行い、いじめ対策を生徒自身が考えて実践していく取り組みをするのがよいと思う。普段から「それはいじめだよ」とさらっと言い合える雰囲気を作るためにも、いじめについての学習や話し合いの場が必要である。(松下議員)
- ・ 本人がいじめをしている、されていると自覚することが大事。そして、いじめに対してどう考えるか自分なりの意見をもつことが必要だと思う。(村上委員)
- ・ 学級で話し合い、その意見をもとに生徒会で話し合い、「いじめをしない宣言」をする、というような取り組みができるとよい。宣言の内容よりも、話し合いの中で様々な考えを出し合うことで、いじめと正面から向き合うことが大事である。(大塚委員)
- ・ 生徒や保護者の意識の違い、価値観の多様化を考えると、事例等の情報の発信は必要だと思う。(御室委員)
- ・ いじめられていると感じたらいじめ、という認識があるか。生徒自身がいじめかどうか判断できるように、事例を挙げて考えることも大事。(田澤委員)
- ・ 「いじめ」は「みじめ」を生む。いじめた側もいじめられた側もみじめになるということを知ってほしい。(大塚委員)

(2) 部活動地域移行について

議長の指示により、上田校長から学校部活動に関するアンケートの結果について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 大会の有無など、中体連の今後の運営がどうなっていくのかということが大きく関わってくると思う。(大塚委員)
- ・ 部活がなくなっていくのではないかという心配がある。親としては子供の居場所や運動する場が欲しい。しかし、部活に入りたい生徒の中でも目的に差があると一緒にやるのは難しいので、入部時にそれを確認する機会があるとよいと思う。(村上委員)
- ・ 平日の部活もなくなると思われているが、そうではない。休日の地域クラブも学校の施設で行う方向。保護者の考えも多様化していて、課題が多い。また、部活が20もあり、選択肢が多いのはよいことだが、すべて地域移行するのは難しい。(田澤委員)
- ・ 文科省は地域移行の方向で動いている。施設の問題も大きく、現状では学校が使えないと難しい。また、楽しく活動したい、試合で勝ちたい、保護者が頑張らせたいなど、様々な要望がある中、教育の中でスポーツをどこまでやるのかは難しい問題となる。しかし、子供がどうしたいかが一番大事であり、スポーツをやりたい子が、指導者や場所がなくてあきらめる状況は望ましくない。非常に難しい案件である。(松下議員)
- ・ 20の部活にそれぞれ専門の指導者がいるのか。(御室委員)
→ 競技経験者や顧問経験者、部活指導員などを合わせると、今年度は書道部以外は指導者がいる。(高橋教頭)

(3) 学校運営協議会の自己評価について

熟議チェックシートの項目にそって出席委員全員で評価を行った。その中で、それぞれの立場で生徒のあるべき姿や現状の課題について活発に意見交換できたこと、学校の取り組みの重点や悩みを知ることができたことなどを確認した。また、具体的な支援活動については、これからの熟議のテーマとしていくことを共有した。各委員の評価をもとに会長が学校運営委員会自己評価表にまとめることとし、全員意義なくこれを承認した。

(4) 次年度学校運営の基本方針について

議長の指示により、上田校長から、次年度学校運営の基本方針について説明があった。承認については次回運営協議会で行うこととした。

その他報告事項等

- ・高橋教頭より、夢育やらまいか事業について、報告があった。
- ・次回会議は、令和7年4月30日（水）午前9時30分から大会議室で開催することとなった。